

## レファレンスツールの評価

吉田昭子 (東京都立中央図書館)

- |                              |                               |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 はじめに                       | 9 インターネットホームページ評価の観点          |
| 2 図書館をめぐる環境の変化とレファレンスサービス    | 10 リンク集研究                     |
| 3 レファレンスプロセス                 | 11 自分なりのリンク集作成のすすめ            |
| 4 「レファレンスツールの評価」のねらいと視点      | 12 レファレンスツールに関する最近の状況を把握するために |
| 5 図書館員自身が選んだたよりになるレファレンスブック  | - 2004年以降 -                   |
| 6 レファレンスブック評価の観点             | 13 レファレンスツールの自己学習のヒント         |
| 7 図書館員自身が選んだインターネットの中の役立つツール | 14 パスファインダーを作ってみる             |
| 8 インターネットと図書館のレファレンスサービス     | 15 自己研鑽を組織のレベルアップに生かす日常的工夫    |
|                              | 16 おわりに                       |

### 1 はじめに

自己紹介

本日のアウトライン

### 2 図書館をめぐる環境の変化とレファレンスサービス

#### 2-1 レファレンスサービスの定義

米国図書館協会レファレンス・利用者サービス部会(RUSA)の定義(2008年1月)  
(<http://www.ala.org/ala/mgrps/divs/rusa/resources/guidelines/definitionsreference.cfm>)  
“reference transactions”(レファレンス質問処理)の新定義

#### 2-2 レファレンスサービスの質問傾向

<質問傾向変化への対応>

所蔵・所在調査 = という本はあるか? ほかに、どこにあるか?

### 3 レファレンスプロセス

#### 3-1 レファレンスプロセスの3段階

[参考資料 1] レファレンスプロセス

#### 3-2 レファレンスインタビュー (「レファレンスインタビューの方法」吉田光美氏)

#### 3-3 調査・回答における留意点 (「レファレンスクエスチョンの処理」鬼倉祥子氏)

#### 4 レファレンスツールの評価 ねらいと視点

- ・ 求める資料や情報を迅速かつ適切に案内できるツールとは？
- ・ レファレンスツールを選択し、活用する技術を身につけるには？
- ・ レファレンス技術や能力のレベルアップ、情報の共有化のための日常的工夫とは？
- ・ レファレンスコレクションを一層豊かなものにするには？

#### 5 図書館員自身が選んだたよりになるレファレンスブック

アンケート調査方式は、『こいつは使える！レファレンスブック あなたの10冊』（参考調査業務実務担当職員 懇談会編、都立多摩図書館・東京都市町村立図書館長協議会、1999年3月）の調査方法を参考にしている。

##### 5-1 JLA 中堅ステップアップ研修 2009年度アンケート結果（受講者数21名）

館種 公共16名（県1、市13、区2） 大学1名、専門1名、学校3名

| 順位  | 書名           | 出版者     | 出版年             | 得票数 | 得票率 |
|-----|--------------|---------|-----------------|-----|-----|
| 1位  | 理科年表         | 丸善      | 年刊              | 11  | 52% |
| 2位  | 国史大辞典        | 吉川弘文館   | 1979 1997       | 10  | 48% |
| 3位  | 日本国語大辞典      | 小学館     | 第2版 2000 - 2002 | 8   | 38% |
| 4位  | 角川日本地名大辞典    | 角川書店    | 1978 - 1990     | 6   | 29% |
|     | 広辞苑          | 岩波書店    | 第6版は2008        | 6   | 29% |
|     | 総合百科事典ポプラディア | ポプラ社    | 2002 - 2005     | 6   | 29% |
|     | 大漢和辞典        | 大修館書店   | 修訂2版 1989-2000  | 6   | 29% |
|     | 日本大百科全書      | 小学館     | 第2版 2000 - 2002 | 6   | 29% |
| 9位  | 日本統計年鑑       | 日本統計教会  | 年刊              | 5   | 24% |
| 10位 | 世界大百科事典      | 平凡社     | 2007            | 4   | 19% |
|     | 日本国勢図会       | 矢野恒太記念会 | 年刊              | 4   | 19% |

【参考資料 2】 2009年度「あなたのレファレンスブック10冊」

【参考資料 3】 2009年度「意外なときに役立つおすすめレファレンスブック」

【参考資料 4】 「レファレンスブック 基本参考図書の解説」

##### 5-2 こいつは使える！レファレンスブックあなたの10冊（1999年調査）ベスト10

『実践型レファレンスサービス入門』斎藤文男、藤村せつ子著（日本図書館協会 2004年刊）

##### 5-3 わたしが選んだレファレンスブックベスト10アンケート結果

2008年11月の日外アソシエーツによるレファレンスブックに限定したアンケート（第10回図書館総合展）CD-ROMやオンラインデータベースは対象外

対象：全国の公共/大学/専門図書館などでレファレンス実務に携わっている図書館員（原則個人）

・『わたしが選んだレファレンスブックベスト10』（日外アソシエーツ 2008年11月）図書館総合展資料

・わたしが選んだレファレンスブック・ベスト10（[http://www.reference-net.jp/my\\_best10.html](http://www.reference-net.jp/my_best10.html)）

【参考資料 5】 「わたしが選んだレファレンスブック・ベスト10」

##### 5-4 レファレンスブックベスト10アンケート結果比較

#### 6 レファレンスブック評価の観点

アンケートでの図書館員の評価の観点

体験的評価結果

## レファレンスブックのガイド類

『日本の参考図書』第4版(日本図書館協会 2002年刊)

国内で刊行された参考図書の注解書誌、明治以降1996年12月まで収録点数7,033点を収録。

参考:『まちの図書館でしらべる』(柏書房 2002年刊)

## レファレンスブック評価のポイント

『情報源としてのレファレンスブック』新版 長澤雅男、石黒祐子著(日本図書館協会 2004年刊)

※ 製作に関わる要素(編著者、出版者、出版年)

※ 内容に関わる要素(範囲の設定、内容の扱い方、項目の選定、排列方法、検索手段、収録情報の信頼性)

※ 形態に関わる要素(印刷、挿図、造本)

## 7 図書館員が選んだインターネットの中の役立つツール

### 7-1 JLA 中堅ステップアップ研修 2009年度アンケート結果(受講者数21名)

| 順位 | サイト名  | 得票数(率)       | 順位 | サイト名                     | 得票数         |
|----|---|--------------|----|--------------------------|-------------|
| 1位 | 国立国会図書館<br>蔵書検索<br>雑誌記事索引<br>総合目録ネットワークシステム<br>レファレンス協同データベース<br>近代デジタルライブラリー | 10票<br>(48%) | 4位 | 楽譜ネット                    | 3票<br>(14%) |
|    |   |              |    | 国際子ども図書館                 |             |
|    |   |              |    | 裁判所の判例検索システム             |             |
|    |   |              |    | 電子政府の総合窓口                |             |
|    |   |              |    | 東京都立図書館/蔵書検索<br>闘病記文庫リスト |             |
| 2位 | 国立情報学研究所<br>GeNii 総合検索システム<br>Webcat(元祖)<br>Webcat Plus                       | 8票<br>(38%)  | 9位 | 紀伊國屋書店                   | 2票<br>(10%) |
| 3位 | Google  | 7票(33%)      |    | 法令データ提供システム              |             |
|    |   |              |    | 本やタウン                    |             |

[参考資料 6] 2009年度「図書館員が選んだインターネット上のツール」その理由

### 7-2 JLA 中堅ステップアップ研修結果(2006~2007年)

## 8 インターネットと図書館のレファレンスサービス

### 8-1 レファレンスサービスでのインターネットの利用に関するアンケート調査結果

[参考資料 7] 2009年度「図書館でのインターネット利用状況」(受講者対象)

### 8-2 求める情報をどのように探すか

[参考資料 8] 求める情報を効率的に探すために

### 8-3 いかに効率的に探すか

(1) 国立国会図書館リサーチ・ナビ(<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>)探し方のヒントを提供

[参考資料 9] 国会図書館リサーチナビで探すには?

参考:国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)

(2) インターネットで文献検索(<http://www.jissen.ac.jp/library/frame/>)

『インターネットで文献検索』2007年版 実践女子大学図書館

コラム「『インターネットで文献検索』はいまだ健在なり!」(『情報アクセスの新たな展開』 勉誠出版, 2009)

## 9 インターネットホームページ評価の観点

作成者（責任の所在） 作成目的（作成方針等） 内容（正確性、公平性、客観性、更新頻度）  
ホームページの構成（デザイン、見やすさ、使いやすさ） 類似サイトとの相違・特徴、他のサイト  
からのリンク（引用率）など。

電子媒体の情報源の評価項目

参考『情報サービス概説』小田光宏著（日本図書館協会 1997年刊）

## 10 リンク集研究

長所や考え方、評価の観点を学ぶ

(1) リンク集 選定基準の明記（例 市川市中央図書館情報源リンク）

（<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/tosyo/link/prelink.htm>）リンク先選定基準

(2) リンク集利用にあたっての注意書き（例 日野市立図書館ホームページリンク集選定要領）

（[https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/hnolib\\_doc200801/library/regulations.htm#hp-link](https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/hnolib_doc200801/library/regulations.htm#hp-link)）

## 11 自分なりのリンク集作成のすすめ

## 12 レファレンスツールに関する最近の状況を把握するために - 2004年以降 -

【参考資料 10】 レファレンスツールに関する参考情報

## 13 レファレンスツールの自己学習のヒント

目標の明確化 <自分自身が使い慣れた常用レファレンスツールを持つ>

## 14 パスファインダーを作ってみる

パスファインダー（Pathfinder）＝道しるべ。特定のトピックや主題に関する資料・情報について、図書館が提供するリスト。レファレンスツールに関して得た知識を生かしてみる。

参考文献

『パスファインダー・LCSH・メタデータの理解と実践 - 図書館員のための主題検索ツール作成ガイド』（愛知淑徳大学図書館 2005年2月刊）

『パスファインダーを作ろう - 情報を探ず道しるべ』（全国学校図書館協議会 2005年3月刊）

（<http://www.community.sapporocdc.jp/comsup/shitanken/>）

パスファインダー Web上の参考事例

## 15 自己研鑽を組織のレベルアップに生かす日常的工夫

Web上のレファレンスデータベースを活用した、レファレンス事例のツールの使い方等を検討分析してみる 国立国会図書館レファレンス協同データベース

（<http://crd.ndl.go.jp/GENERAL/servlet/common.Controler>）

## 16 おわりに

職員のレファレンスツール活用促進と情報の共有化をめざして

自己研鑽を支える「身近な日常的仕組み作り」の努力

「教えること＝学ぶこと」

「情報の共有化」 ベテランも中堅も新人も、ともに学びあえる環境づくり